

「高度医療・人材供給拠点」整備への広島県医師会提案・意見等について

令和3年12月23日広島県医師会

「高度医療・人材供給拠点」整備への広島県医師会からの提案・意見等は次のとおりです。

【背景】

- ・政令市を有する比較的大きな人口規模で、中国四国地方の中核県であるにもかかわらず、本県にはがんセンター、子ども病院がない。
- ・本県出身者で医師になるものは多いが、県内で働く若手医師は不足している。
- ・その主たる原因が、他県にも誇れる高度医療が必ずしも十分に行われていないことと考えられる。

【提案・意見】

◆「県外からも患者を呼べる病院」と「県外から若手医師を呼べる病院」をイメージして、**機能を中心に提案する。**

◎大学病院にない機能、あるいは弱い機能を「高度医療・人材供給拠点」の整備すべき機能として考えることが必要である。

○専門性の高い高度先進医療（中国・四国地方もターゲットにすべき）

○政策医療→小児医療（小児外科含む）、周産期医療、救急医療

○広島県にない・弱い施設機能：

●小児医療の充実

- ・小児専門部門の併設（拠点（病院）内に子ども病院化＝他県の実例（静岡県）からも、子ども病院単独で設置させることは非効率と考える）※小児科・産科に係る多くの専門医の集約

・小児救命救急センター（PICU 開設）

- がん医療の充実（HIPRAC を高度医療・人材供給拠点の放射線治療の一部門として発展的に統合、粒子線治療装置導入（福井県立病院などにも既に導入されている。小児がんにも強い武器）の提案）→粒子線治療装置導入により、患者が集まり、患者が集まると医師も集まる。自然に医師数が増えれば、地方に回す医師も増えてくる。

●生殖医療

○総合医の育成

- 地域医療への人材派遣・人材供給機能（医師・医療人材）
…ただし、高度医療の実現（若手医師の県外からの招へい）と地域医療への人材派遣・人材供給という相反する二つの機能を同時に実現するにはどうすべきか。また、大学医局派遣との調整も必要となる。
→高度医療・人材供給拠点は県内へのUターン医師の受け皿となり、単独で人材派遣を行うのではなく、周囲施設（相互補完施設）との連携で行うとよい…入念な仕組みづくり・システム作りが必要。
- 広島都市圏の医師としての視点では、総合性を持ち、かつ循環器領域と消化器領域などで専門性も高く、敷居の低い、紹介しやすい他科横断的な病院も望まれる。

◎大学医局とのつながりも必要であるが、広島都市圏の他の基幹病院との役割分担も考慮するとともに、全国公募制度の導入も検討してはどうか。

- ◆「高度医療・人材供給拠点」整備が、もし現存の病院の移転・廃止を伴うものであれば、職員及び地域住民・地域の医療機関の合意（代替措置の検討も含め）を先に行うべきではないか。

【懸念事項として】

- ◆広島県と広島市との間で十分な調整が必要である。
- ◆地域医療構想の中で、高度医療（高度急性期・急性期）を担う場合、現在、高度急性期・急性期をつかさどる他の医療機関がどうなるのかを考える必要がある。
- ◆患者の将来の疾病構造や需要等も変化していくと考えられるため、将来予測を十分に行って機能等を考えるべき。
政策医療といっても限られた予算の中で対応しなければならないことから、人口減少に伴う患者数の減少などの負の材料もしっかり考えておくべき。
- ◆小規模な病院を統廃合することとなれば、将来的に、高齢者を受け入れる病院が無くなる恐れがあるのではないか。